



GERMANY

飲んで走って、走って飲んで。 給水不要!? のビールラン。

text by Hideko Kawachi

走った後のビールの味は格別。ビール好きのランナーなら一度は夢見たことがあるだろう。ビールを飲みながら走るマラソンがあったら……。ビール大国ドイツには、そんな願いを叶えてくれるレースが各地に存在する。

首都ベルリンでは「ビールカップル・ランニング」が人気だ。ペアで参加し、1人が1000mを走る間にもう1人がビールを300ml飲み干すというのを交代で10回繰り返し、最後は一緒にゴールする。紅葉が美しい郊外のスタジアムで毎年10月に開催。飲酒可能年齢の18歳以上であれば、20ユーロの参加費を払って誰でも参加できる。

また父の日にはミュンヘンやベルリンといった都市で中瓶20本入りのビールケースを持って走り、途中のポイントで飲んでいく「ビールケース・マラソン」も盛んだ。しかし毎年事故やボイ捨てが問題となり、取り締まりが始まった。現在は禁止の地域が大半だが、デュッセルドルフでは今年も開催された。「酒は飲んででも飲まれるな」日本のこの言葉をドイツ人に贈ってあげたい!



Schwer!



Lecker!

BIERKASTENLAUF

ドイツの父の日は「男子が男子だけで飲み倒す日」。「ビールケース・マラソン」に相応しい日だ。

BIERPAARLAUF

「ビールカップル・ランニング」で飲むのは、300ml×10杯で3L。中ジョッキ換算だと6杯〜8杯程度に。



WSV Berlin[2]

BARE BUNS RUN

今年で18回を数える伝統レース。参加者の約2割が女性で、筆者は27分で走り抜け、女子の部優勝!



What a good feeling!

Take off for charity

Richin Chen

THE VANCOUVER SUN RUN

「SUN」は地元新聞社。バンクーバー中心地で開催、服以外にも15万カナダドルの寄付金が集まった。



CANADA

脱ぐことで人の役に立ち、 脱ぐことで自分を解放する。

text by Shizuka Yoshimura

遥かカナダからは2つ「脱ぐ」大会をご紹介します。まずは毎年4月に開催される10kmレース、「バンクーバー・サン・ラン」です。今年で30回の節目を迎え、なんと4万5183人がエントリー。この大会がユニークなのはスタート直前にランナーが上着を脱ぎ、フェンスに向かって投げっていくところ。これはチャリティのひとつで、衣類を必要としている人へ寄付されるとのこと。今年は約1,970kgもの衣類が集まったそうなの!

2つめはバンクーバーにあるネイキッドビーチ、「WRECK BEACH」で開催される「ヘア・パンズ・ラン」。距離は5km、みんな裸で走ります。スタート5分前まで恥ずかしくて裸になれなかった私ですが、脱いでみたなんてことなし。太陽の光が「身体のみずみず」まで当たる気持ちよさ、自分が自然の一部になったような開放感を得られました。周回コースなのでランナーと何度もすれ違い、ハイタッチしたり声を掛け合えるのも魅力です!



Shizuka Yoshimura